

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172101202
法人名	株式会社アイディ・インターナショナル
事業所名	グループホーム東町
訪問調査日	平成19年11月8日
評価確定日	平成 20 年 1 月 8 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入)
法人名	(株)アイディ・インターナショナル
事業所名	グループホーム 東町
所在地	岐阜県大垣市東町4丁目44番地1 (電 話) 82 - 1508
評価機関名	旅人とたいようの会
所在地	大垣市伝馬町
訪問調査日	平成19年11月8日

【情報提供票より】(19年 9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建て	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 600 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1400 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	6 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大垣市民病院 岩田歯科医院 はやかわクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関前の広い空間に見上げる大きなクスの木があり、適当な日陰と安らぎがある。また事務長手作りの看板や和風の玄関も温かみがある。事務長始め管理者・職員がホームの理念「ありのままの自分でいたい」を実践した支援は、利用者の落ち着いた表情やことばから感じられる。広い中庭にはテーブルや椅子があり、バーベキューや焼き芋・お茶をしたり、ゆったり自由にごしたり、野菜や草花を育て、車椅子でも景色を眺めたり、外気浴を楽しみ、季節を感じ気分転換もできる。毎日の生活が自分らしく、あふれる笑顔のなかで暮らし、職員が笑顔で支えているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	鍵など数項目の改善課題があったが、職員と協議し改善向上の取り組みを進めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	前回の評価を踏まえ、今回の自己評価はユニット会議で見直しをしながら、全職員と話し合い検討して作成している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は定期に開催し、ホームの状況や利用者を自治会・老人会など地域行事へ参加したり、ホーム行事にも地域住民の参加の話し合いをしている。自治会長の理解や協力が得られ、ホーム側の連携への取り組みも期待できる。又地域向きの広報「こまれば」を発行し自治会に回覧している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	玄関に意見箱を置いたり家族会からも意見を引き出す努力をしている。家族の訪問時にはコミュニケーションを心がけ聞き出す工夫や居室で話せる機会を設けている。意見や不満苦情はどんなことも即対応解決している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	利用者は隣接する施設、小学校、保育園の行事や散歩時に立ち寄り、小学生が福祉学習に来たり、住民が犬の散歩に立ち寄り、畑に収穫にでかけたりなど交流に努めている。運営推進会議に多職種の地域参加メンバーを呼びかけ、より深い関係作りや連携を深める話しあいが見られる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針の改正に伴い、地域密着型サービスとして独自の理念を改めている。「ありのままの自分でいたい」「あふれる笑顔の中で暮らしたい」「地域での役割を持ち、共に生活したい」とパンフレットに掲載し職員も共有している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に事務長手書きの独自の理念を掲示し、毎朝申し送り時に全員唱和し自覚を深め利用者と接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の施設・地域の小学校(虫狩り)・保育園(運動会)等の行事に参加している。施設の畑やホームの畑へ野菜の収穫に出かけたり、近隣住民が犬の散歩時に立ち寄ってくれたり、夏休みに小学生が福祉の学習に来たりと交流がある。グループホーム広報「こもれび」を自治会向けに発行し回覧している。また自治会に加入するかどうかが自治会長と検討中である。		自治会に加入すること、地域行事に参加することなど、利用者本位に考慮し、ホームとしてできることから実践することを期待したい。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価の結果を職員は共有し、改善に向けて話し合いを行い、薬の管理、洗剤の保管場所、パンフレットに理念を記載など出来ることから改善向上している。今回の自己評価はユニット会議で全職員と話し合い、検討して作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回を定期に開催している。参加者:包括センター・自治会長・利用者・家族・ホーム管理者で開き、ホームから利用者の状況やホームの現状(行事・非難訓練実施)などを知らせている。自治会長から自治会の詳細や老人会への参加についての話あいをしている。会議の内容はユニット会議で職員に伝えている。会議は隣接の施設で開催している。		地域の行事に参加したり、ホームと交流や連携をして良い関係作りをするには、運営推進会議に民生委員・老人会など多職種の地域住民の参加を促し多くの素直な意見を引き出し改善に向けた取り組みが望まれる。また時には、会議をホームで利用者を交えて開催することも、より利用者やホームの実態の理解につながると考えられる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは会議以外に入退所や他施設に転居など、運営上の問題、不明な点などについて気軽に相談や指導を受けサービスの向上に取り組んでいる。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の日ごとの状態を話し、介護計画の見直しには丁寧に意見を聞いている。金銭管理は3ヶ月ごとに報告し同意を得ている。又毎月家族向けの便り「東町たより」を発行し利用者の近況写真を載せて暮らしぶりなど情報を家族に送付し伝えている。緊急や変化があれば即電話などで相談をしている。		現在、ホーム側から職員の異動や、運営推進会議の話し合いの報告をしていないが、今後ホーム便りなどで記載し周知することが家族の安心につながり意見が云いやすくなると思われる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。意見苦情は職員に直接話す家族もあるが申し送りノートに記入し、即刻、周知共有して、対応改善している。職員は常に家族とコミュニケーションを心がけ居家で話せる機会も設けている。職員に対する不満や苦情は管理者が指導や助言をしたり職員同士で意見交換して改善と質の向上を図っている。		不満や意見はなかなか言いにくいと思われるので、ホーム外の公の苦情相談窓口などを重要事項説明書・契約書などに明記するのをも一考かと考える。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限にする努力をしている。ホーム中央に両ユニットの台所があり、職員も利用者もお互い行き来出来馴染みの関係がある。利用者(居室)担当の職員もあり混乱を避ける配慮がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育成する取り組みは積極的である。外部研修は職員の自主性を尊重し勤務体制に配慮し参加できる体制がある。音楽療法に参加し職員に伝達共有して実施に向けている。内部研修は定期的に、緊急対応・救急救命・接遇など看護師から学んでいる。介護に対しての不安は上司や同僚の助言指導で解決している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会研修に参加し情報(運営など)を得たり同業者との意見交換をしている。隣接の介護老人福祉施設とは行事に参加したり、喫茶に立ち寄りたり職員とも馴染みで交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>申し込みに対し面接や見学を進め、本人や家族が納得して利用できるよう話し合いをしている。入所後は職員が紹介しながら利用者同士が同じ趣味や気の合う仲間作りの支援をしている。家族が寝具持参で宿泊したり、自宅の花を持って訪問したりと馴染みの関係作りに協力的である</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>裁縫の好きな利用者にはズボンやエプロンの直しやカーテン・暖簾の飾り作りを手伝ってもらっている。又利用者の居室の掃除、整理整頓、衣替えを一緒にしながら、昔話や人生の先輩として助言を受けたり利用者の思いを知ることができる。時には職員は嫁としての心得を学んだり互いに支えあう関係にある。</p>		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いを引き出す工夫として、入浴時や夜間・不穏なとき職員と対面してゆっくり話しを聞くようにしている。家族や知人から聞くこともあるが日常の関わりから知り、踊りたい、せりふつきで唄いたい、お経を唱える、体操をしたい、パンはサンドがいいなど常にアンテナを張って職員同士も情報交換しながら、利用者一人ひとりの、その人を知る機会を逃さず、希望を叶える努力がある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当職員を中心にユニット会議で、医師の意見や家族や知人から得た情報を、センター方式でアセスメントして介護計画を作成している。本人や家族の思いを反映させ同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別の介護記録をもとにユニット会議で評価表を作成し見直ししている。入所時は1ヶ月で見直し、3ヶ月・6ヶ月と状態にあわせ、利用者の変化があれば関係者と話し合い、即見直し対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状態や要望に合わせて受診、美容院、買い物などの支援を柔軟に対応している。隣接の施設に歯科医療設備があり利用者の状態に合わせて歯科医の往診診療が受けられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を尊重し家族同伴で受診している。協力医療機関の月2回の往診も自由に受けられ、連携が出来ており緊急体制もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では看取りの体制になっていないので入所時に説明している。しかし利用者は「此处で死にたい」「ずーといられるか」と家族の声もあり、12月から夜勤看護師が入り24時間利用者の健康管理が整う準備に入る。重度化に対応できる体制は整うが、介護職員の終末期に対して力量不足もあり、現在は早期発見早期治療の方向である。		隣接の介護老人福祉施設との協力で、12月ごろから夜間看護師導入の準備もあり安心できる。更に利用者・家族の意向や馴染みの環境の中で安楽に住み続けられる体制を、関係者と充分話し合い方針の統一を図ることが重要であり期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーや羞恥心を尊重することを日々朝礼などで話し合い共有している。排泄の誘導など耳下で声かけたり、入浴時の対応にも注意している。個人情報の書類も丁寧に扱い事務所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくりしたい利用者、一人居室で折り紙をしたい利用者、パチンコや花札をしたい利用者、1時間かけてゆっくり食事する利用者、好きな歌手の歌をポスターの前で歌いたい利用者など、それぞれのペースで過ごし職員も希望に合わせて見守り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に献立を決め、野菜の皮むき、調理準備、盛り付け、片づけなどそれぞれが出来ることをしている。職員は形態の違う特別食の利用者には、壁に貼った今日の献立を説明しながら話題を提供し、急かさず楽しい雰囲気づくりの工夫が見られる。利用者から「おいしかったです」の声が聞かれた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本に利用者の状態、希望にあわせて清潔保持に努めている。湯温や入浴剤を利用者の好みにあわせ「今日は何色にしよう」「この色は 温泉」と温泉旅行の会話をしながら楽しんでいる。夜の入浴を希望する利用者があるが職員の勤務の都合で行えていない。		利用者の「夜の入浴希望」をホームも課題としているので「何時であれば可能か」職員間で検討工夫が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の職歴を活かし本の朗読、針仕事得意な利用者には袋物作成や繕い物を頼み、スーパーの袋を畳んだり、シーツ交換や掃除・炊事を一緒にしたり、カラオケなどできることを声かけて楽しみに繋げる支援をしている。利用者一人ひとりに日頃「たのませてもらった事」「手伝ってもらった事」「役割をしてもらった事」など職員から一言を書いた感謝状を贈り利用者一人ひとりの生きがいや尊厳を大切にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候に合わせて出かける工夫をし、散歩コースに保育園、小学校・施設の喫茶に立ち寄り買物もしている。中庭に出てひなたぼっこ、お茶タイムにしたり、家族と出かける利用者もある。今後地域やボランティアの協力で遠出も考えている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の評価の改善項目でもあり、鍵をかけることの弊害も認識している。居間から段差のない広い庭に洗濯物を干したり取り込んだり、野菜の手入れや収穫に自由に出入りできる。日当たりもよく外気に触れ、景色を眺める庭に、出る声かけや支援を促している。利用者の状態にあわせ一緒に外出し閉じ込めない工夫もしている。しかし玄関は構造上見守りがしにくいので、職員が事務室にいる時間帯など鍵をかけない時間づくりへの工夫や努力がみられる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常事態に備え消火訓練・設備点検・避難訓練を年間計画に基づき行っている。地域住民の協力を呼びかけているが参加はない。近隣の職員・隣接の施設の協力も大きく安心できる。		ホーム独自の体制・施設との協力体制が強固であるが、災害時には地域の援助は必須と思われる。運営推進会議に話題を提供し何時起きるか分からない災害に備え協力体制づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を主に取り入れ、隣接の施設の栄養士に栄養バランスの指導を受けている。利用者の排泄・水分・食事摂取量などをチェックし、利用者一人ひとりの身体状況に合わせた食事形態にし、盛り付けにも食欲をそそる配慮をして提供している。又毎食前に看護師が嚥下体操をおこない安全な食事摂取に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの建物で段差なく安全である。玄関や周りには季節の花で飾り、南向きの居間は日当たり良く不快な音や臭気はない。裏出口に長いすにクッションがあり一人落ち着ける居場所がある。広い中庭は体操やお茶、行事、リクリエーションと多目的に利用できる。浴室は広く個浴や福祉用具を準備している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が染めた自作ののれんをかけ、家族写真、筆筒、椅子テーブル、人形、化粧ケース、書、本、洗面用具など、使い慣れた馴染みの物を置いて過ごしやすく楽しんでいる。氷川きよしのポスターCDラジカセなどで唄い楽しんでいる利用者もある。		